

平成31年度 小平市立小平第十二小学校 学校評価報告書

学校教育目標 ○明るく元気でたくましい子 ◎よく考えずすんで実行する子 ○たがいになかよくする子

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 子どもも、大人も、みんなの笑顔があふれる学校
- 【目指す児童・生徒像】 子どもが夢を描き、心弾ませて通う学校
- 【目指す教師像】 教職員が働く喜びを実感し、誇りをもてる学校

前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・開校50周年記念行事や青少年赤十字加盟校、道徳・特別活動を中心とした校内研究の取組により、ボランティアマインドや自尊感情の向上を図れた。
- ・基礎・基本の定着が十分でない。思考力、表現力で個人差がある。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	「十二小タイム」や「朝学タイム」で、東京ベーシック・ドリル等を活用した補充的学習を充実させる。	3	4	十二小スタンダードの診断テストでは、全学年で80%の点数を取ることができた。引き続き、基礎学力の定着を図っていく。	3	4	・基礎学力向上が図られてきていると感じる。来年度も力を入れ、進めてもらいたい。	・次年度も「十二小タイム」や「朝学タイム」で、東京ベーシック・ドリル等を活用した補充的学習を充実させ、基礎基本の学力の定着を図っていく。
	課題解決的な学習を進める。	4	4	96%の児童が、課題解決型の取組のペア学習やグループ学習に取り組んでいるので、さらに進めていく。	4	4	・ペア学習やグループ学習は、よい取組なので、引き続き行ってもらいたい。	・課題解決型の授業で、ペア学習やグループ学習を通し、児童が主体的学ぶ学習を進めていく。また、深い学びにつながるよう、日々授業改善を図り、発展的な学習にも取り組んでいく。
体力向上	運動会・水泳・ジョギング大会等で、目標を決め活動する。	4	4	児童が運動に頑張れていると思っているが、運動が苦手な児童へは目標を決めるなどし、頑張れたという意識改善を図っていく。	4	4	・運動が二分化しているのではないかと思う。外遊びをする児童が減っているように思う。いろいろな遊びの体験を通し、運動が好きな児童の育成を期待したい。	・体育の授業でも課題解決型の授業を展開し、もっと運動したいと思う児童の育成を行っていく。また、様々な体育的な取組を学期ごとに
健全育成	「十二小スタンダード」をもとに、統一した学校生活ルールで指導を進める。	4	3	88.6%の児童が意識できているので、今後も生活指導部を中心に、児童の十二小スタンダードの取組に対し、丁寧に指導をし続けるとともに、守ることの大切さを考えさせ、実行させるようにする。	4	3	・挨拶ができていない児童が少なくないと思う。元気な挨拶ができる児童を育成してほしい。	・「十二小スタンダード」をもとに、統一した学校生活ルールで指導を家庭と連携して行っていく。特にあいさつ運動に力を入れ、家庭・地域の方々や連携し進んで挨拶する児童の育成を図る。
	「マイチャレンジカード」の活用(各学期)、いじめ調査の実施(各学期)、校内委員会による組織的対応(定期及び臨時)を行う。	4	4	90%の児童がいじめの対して児童も先生も取り組んでいると考えている。ふれあい月間をもとより、学年やブロックでいじめ防止を取組を進めていく。	4	4	・いじめを許さない学校づくりをこれからもお願いしたい。	・いじめ調査の実施(各学期)や学年会やいじめ校内委員会等による組織的対応(定期及び臨時)を行い、家庭や地域と連携し、いじめゼロの学校を作っていく。
特色ある学校づくり	ICTを活用して授業を行い、分かりやすい授業を行う。	3	4	ICTを活用した授業が当たり前になるよう意識して授業を行うようICT活用部会を中心に行う。	3	4	・ICT機器を活用した授業を行うための教室環境作りや教員の指導力を伸ばして分かる授業を展開して欲しい。 ・学習支援ボランティアの充実を図り、授業以外での地域の支援も取り入れた学校作りを期待したい。	・ICT機器を使用できる環境を進める。日常的にICT機器を活用した分かりやすい授業を行う。指導者が大型テレビを活用するだけでなく、児童が発表等をするときにも活用し、児童の意欲を高める授業を行うよう工夫していく。
	学習支援ボランティアやスクールサポートスタッフの活用事例集や近隣学校の活用事例を聞いて、実践を図る。	4	4	95%以上の保護者が満足しているが、引き続き活用し、情報を増やしながら保護者、地域の方々にも活用について発信していく。	3	4	・学校支援コーディネーターの活用を進め、学習支援ボランティアの充実やスクールサポートスタッフの活用を通し、教員の働き方改革を進めるとともによりよい外部人材を活用した授業を行っていく。	